



# *Voice of friends*

2017spring & summer  
ニュースレター Vol.41

 **FRIENDS**  
WITHOUT A BORDER



# 医療功労賞 赤尾和美が [第45回 医療功労賞]を 受賞いたしました



▲晴れの舞台、金屏風の前に勢ぞろいした受賞者の皆さん



▲一人一人、受賞者の表彰が行われました。緊張の面持ちです



▲カンボジアやラオスの道なき道を歩み、山を越えて患者さんの元へ。医療のない村に希望を届けています

読売新聞社が主催する〔医療功労賞〕は、山間部や離島、発展途上国などの厳しい環境下で、長年にわたり地域に密着した活動が続けている医療従事者を讃える賞です。献身的に医療活動に取り組みながら、医療の届きにくい地域の医療水準を向上させ、普及に貢献したことが認められる人たちの中から、選考委員により選ばれます。

1972年に設立され、45回目を迎えた今年、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN 代表の赤尾和美が、海外部門において、この賞を受賞いたしました。受賞理由として伝えられたのは、以下の通りです。

「カンボジアやラオスなど保健システムが脆弱な地域で、新たな医療の形作りに取り組んできました。1999年にカンボジアでアンコール小児病院が開院する際には、医療スタッフの教育と技術指導に携わった。以来、貧しくて病院を受診できない人たちのために、訪問看護に力を入れ続けた。また、エイズ感染症の子どもたちによる自助グループ作りを支援し、リーダー養成を行った。ラオスでは政府と交渉し、2015年のラオ・フレンズ小児病院の開院につなげた。同国でも栄養失調やエイズ感染者の訪問看護プログラムを開始し、合わせて現地スタッフの人材育成も続けている」

こうした活動が続けられるのは、フレンズの理念に共鳴し、ご支援いただいている多くの皆さまのおかげです。この受賞を励みとし、これからも、アジアの子供たちの笑顔のために活動を続けてまいります。

## ごあいさつ

このたびは思いもかけずに医療功労賞という大きな賞を受賞することができ、たいへん驚いております。3月13日に授賞式を終え、皇居で天皇皇后両陛下との拝謁をさせていただき、その賞の重みを実感いたしました。たくさんの方々からお祝いのお言葉をいただき、大きな力に支えられてここまで来られたことをしみじみと感じ、感謝の気持ちをかみしめました。

18年間の東南アジアでの医療活動を通してたくさんのことを学びました。人生の核ともいえる時期に貴重な体験をすることができたのは、幸運に恵まれていたと思います。しかし、その間には少なからず家族へのしわ寄せがあったことは否めません。授賞式に同席した母には寂しい思いもさせてしまったな……という気持ちも浮きました。今回のことが少しでも親孝行になったらと思います。これを機に気持ちを引きしめて頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

赤尾和美

## ラオ・フレンズ小児病院 開院 2 周年記念式典を举行

2017 年 1 月 25 日、ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) にて、開院 2 周年記念式典が執り行われました。式典には、ラオス政府関係者をはじめ、フレンズ創設者の井津建郎やフレンズ USA の理事、支援者など、多くの方が参列してくださいました。

外来診療のみでスタートした LFHC ですが、入院病棟や手術室のオープンなどを段階的に拡張し、2 年経った今、当初予定していたすべての部署がスタートを切っています。それと並行してスタッフも増加。経験や進度に合わせ、スタッフ教育のプログラムも多彩になってきました。2 年の月日が病院をステップアップさせていると、参列の皆さまにも感じていただけたようです。

式典終了後に行われたのは、患者さんと付き添いの家族のためのフェスティバル。ジャグリングショーや紙の魚釣りコーナー、巨大なバルーンの滑り台など、あちこちで歓声が上がっていました。毎年恒例の栄養たっぷり「おじや」も振舞われ、お母さんたちには栄養についてのレクチャーも。

笑顔、笑顔で終えた 1 日。翌日からは 3 年目突入です。心のこもった、質の高い医療を提供できるよう、また一歩一歩、歩を進めてまいります。

▶創設者の井津建郎からも  
お祝いのスピーチが

▼プロのジャグリングショーは子供たち  
を釘付けにしました



## 手術室その後

手術室は昨年 7 月にオープン。器材を揃えたり、スタッフを育成したりすることに時間を要したことは、前号でお伝えしました。さて、オープン後は順調に機能しているでしょうか？



もちろん、順調です！今のところ、ヘルニアやケガに対する手術が多いようですが、月に 40 件を超える手術が行われています。実践により得られる様々なことを吸収し、スタッフもたくましくなってきました。高度な手術に対応できるまでにはまだまだ時間がかかりますが、着実に成長しています。日々の研鑽の積み重ねこそが大切だと心に刻み、まずは目の前にいる患者さんに向き合っているスタッフを、これからも応援してください。

## 新生児室が大活躍

昨年 10 月にオープンした新生児室が、フル稼働しています。抵抗力の弱い新生児は感染症への配慮が必要で、母子共に、よりデリケートなケアを行わねばなりません。新生児室のオープン前は、一般病棟で気を配りながらケアをしている状態でした。独立した専用室ができ、より安全な環境を確保できたことは、とても喜ばしいことです。

また、オープンに当たっては、タイ日赤大学から新生児ケアの専門家を招聘し、1 週間に渡る特別研修も行いました。講義と実

▶常に大忙しの新生児室



践を合わせた充実した研修内容で、受講した約 20 名のスタッフは、小さく弱い新生児にも自信を持って対応しています。

## LFHC に日本人スタッフが着任

LFHC の日本人スタッフはこれまで赤尾看護師のみでしたが、昨年 12 月より、戴理江（タイ リエ）さんが渉外・広報ディレクターとして着任しました。LFHC と地域社会・支援者・他団体との連絡窓口や、各種イベントの計画、フレンズ・ビジターセンターでの活動紹介やゲスト対応などを担っています。

理江さんから「LFHC と地域社会が共に活動する新しい企画をいつも練っています。地域の血液バンクと一緒に活動を行ったり、地元のレストランと寄付集めのイベントを行ったり、協力的な地域の方々の一員として活動することを楽しんでいます。病院のスタッフはそれぞれ違う役割を担っていますが、最終目的は皆同じ、ラオスの子供たちに高度な医療を提供する継続的な病院を作り上げていくために活動しています」と、近況が届きました。とても頼もしい新人スタッフです。



▶インターナショナルスクール出身で英語が堪能な理江さん。着任早々からフル回転の活躍ぶりです





## アンコール小児病院 開院 18 周年記念式典举行



◀式典用の晴れ着をまとったスタッフたち。今や大所帯のAHCです

2017年1月27日、アンコール小児病院（AHC）にて、開院 18 周年記念式典が執り行われました。式典には、カンボジア政府関係者をはじめ、フレンズ創設者の井津建郎、日本の支援者グループ、フレンズ USA の理事と支援者など、多くの方々が参加してくださいました。

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーが設立し、運営を行っていた AHC は、2013 年に自立し、現在はカンボジア人により運営されています。1999 年の開院時は、ごく数人のスタッフと、ごく数人の患者さんでのスタートでしたが、18 年経った今、スタッフ数約 500 人、1 日の平均患者数約 500 人という、カンボジアを代表する大きな小児病院に成長しました。開院当初からのスタッフは、今や病院の中核を担っています。

## 楽しみながら支援活動！ 独自の 방법으로フレンズをサポートしてくれています

フレンズをご支援くださる形は多種多様。個人で寄付をくださる方、学生サークルの皆さん、職場で寄付を募ってくださる企業様、募金箱を置いてくださる方、ボランティアとして様々な作業を手伝ってくださる方々……。中には「自分たちが楽しんで、それを支援につなげたい！」と考え、応援してくださっているグループもあります。

「フレンズ応援団」は、以前フレンズ事務局のスタッフだった渡邊信子さんが発起人となって結成されました。楽しいイベントを計画し、その参加費の一部をご寄付いただいています。これまで催されたのは、[ 三崎のまぐろを食べに行こうツアー ] [ 日光紅葉ツアー ] [ 春の日黒川お花見散歩 ] などなど、気負わずに参加できる日帰りミニトリップです。フレンズのことを知ってほしい、フレンズでつながった人たちと仲良くなりたい、それらをかなえる場を作りたい、といった気持ちから発足を思いついたとのこと。

「Friends of Friends MATSUDO」は、フレンズ正会員の秋野千絵里さんを中心に、千葉県松戸市を拠点として活動しているグループ。趣味の手作り雑貨を [ チャリティー雑貨市 ] と

日本からご参列いただいた方々は、フレンズ創設期よりご尽力いただいて以来、継続して AHC にご支援をくださっている皆さまです。成長した病院とスタッフをご覧いただけたことを、現地スタッフも喜んでおりました。

フレンズの元から巣立った AHC ですが、フレンズは、今後も一支援者として AHC を支え、見守ってまいります。



## ミャンマー支援を継続

フレンズ JAPAN は、ミャンマーの現地 NGO 「ゴールド・ミャンマー」と協力し、保健教育活動を行っています。農村部の子供たちへの健康診断、衛生教育、母親向けの栄養教育などが主だった活動で、プログラムごとに成果や反省を確認しながら進めている状況です。ラオスやカンボジアの子供たちと同様、ミャンマーの子供たちにも思いを馳せてくださいますよう、お願いいたします。

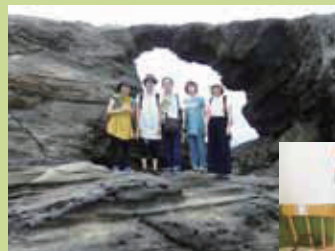


◀村のお母さんたちの中から講師役となるトレーナーを養成しています

## Supporter

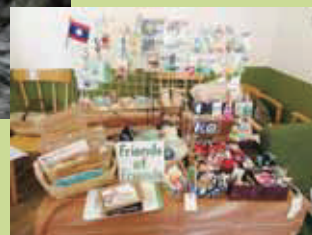
してカフェやイベントで販売し、売上金の一部をご寄付いただいています。ヘアゴム、ビーズアクセサリ、アイロンビーズの雑貨、布小物、ぬいぐるみなど、趣味の作品が支援につながるのが嬉しく、楽しいのだとか。

自分にも無理なくできること、自分に合った支援でフレンズとつながってくださるのは、とても嬉しいです。「こんなこと、してもいいですか？」といったご相談も大歓迎ですので、お気軽に事務局までお問い合わせください。



▲「三崎のまぐろを食べに行こう」ツアーでの 1 コマ。まぐろづくしランチも大満足

▼カフェの一角が雑貨屋さん。作るのも、売るのも楽しい





## 2016 年活動報告会

2016 年 11 月 30 日／フレンズ JAPAN 事務局

2016 年を振り返り、ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) と赤尾看護師率いるアウトリーチプログラム、フレンズ JAPAN の活動報告会を行いました。



▲報告会からそのまま忘年会へ

LFHC では約 2 年をかけて予定されていたすべての部署がオープンしたこと、悪路に負けず遠方へも出向いているアウトリーチプログラムの活動事例、国内ではクラウドファンディングに挑戦したり新しい形態のイベントを開催したりと、これまでとは違った試みに取り組んだことなどを報告。活発な質疑応答でも盛り上がりしました。

報告会の後は、皆さんが持ちよりくださった手土産を広げ、恒例の忘年会へと突入です。平日の開催でしたが、スタッフの心配をよそに、学校帰りや会社帰り、たくさんの方にご参加をいただきました。

## Act Against AIDS 2016 [THE VARIETY]

2016 年 12 月 1 日／日本武道館

世界エイズデーに合わせ日本各地でエイズ啓発活動を行っている Act Against AIDS の武道館イベント【THE VARIETY】が



▲世界エイズデーは AAA のコンサートに行こう！

開催されました。このイベントの収益金をラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) にご支援いただいています。

たくさんのミュージシャン

や俳優、コメディアンなど、ジャンル

を超えたアーティストが多様なパフォーマンスを繰り広げる Act Against AIDS【THE VARIETY】は、各種メディアの芸能ニュースでも毎年報じられているので、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。歌あり、ダンスあり、笑いあり。さらにはスペシャルなコラボレーションもあり。一夜限りの、特別で極上な音楽イベントです。最初から最後まで息つく暇もないほどの楽しさと感動にあふれるこのイベントは、チケットを購入してその場にいることがそのままチャリティーにつながります。

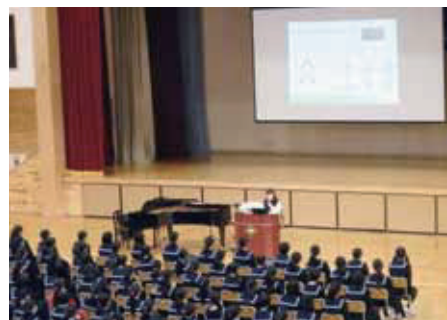
会場の外には LFHC の活動を紹介するブースが設けられ、また、イベントの中でも、LFHC の紹介と、支援金がどのように活かされているかの報告が行われました。

Act Against AIDS 2016 in 五所川原  
2016 年 12 月 2 日／五所川原第一中学校

Act Against AIDS が青森で開催している AAA 青森。『みんなは大切な宝物』をテーマに、青森出身のボーカルデュオ・サエラさんのコンサートと赤尾看護師の講演で構成されたイベントです。同会場で 3 年連続開催として企画され、今回はついに 3 年目を迎えました。赤尾は、命の尊さとエイズの知識を、3 年生の生徒に向けて講演。最後には生徒たちによる『ふるさと』のアカペラ大合唱もあり、それぞれが皆、心を震わせるイベントになりました。

このイベントは、教職員の方々にも生徒の皆さんにも毎年好評で、継続を期待する声や、大人向けにも行ってほしいというご要望もいただいています。今後については未定ですが、この経験をこれからのイベントにも活かしていければと思っています。

▶青森での AAA。3 年連続企画の 3 年目でした



## ラオスを知ろう ルアンパバーンのナイトマーケット

ラオ・フレンズ小児病院があるルアンパバーンは、街全体が世界遺産に登録されている国内有数の観光地です。ツアー客が旅行のお土産を見繕うのに最適なのが、毎日、夕方から夜 10 時頃まで開かれているナイトマーケット。街の中心部、約 500m の通りがテントで埋め尽くされ、多くの観光客が集います。

広げたシートの上には、それぞれの店がぎっしりと並べた物！物！物！民族ごとの刺繍製品、銀製品、アクセサリ、バッグやポーチなどの布製品、T シャツ、ペーパークラフト製品、竹かご製品、手すきの紙袋や布袋に入ったコーヒー＆ハーブティー、ぬいぐるみ……。手作り品が多いため、ほとんど同じ物がないのも興味深

いところ。似た店であっても、皆、微妙に違っているんです。通りを歩けば、まるで宝探しをしているような気分。

ナイトマーケットのもうひとつの楽しみは、何と言っても価格交渉。「あっちのお店はもっと安かった」「まとめて買うから安くして」など、会話しながら値切る楽しさを味わいたいものです。

▶カラフルなお店がぎっしり。眺めるだけでも楽しい





フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーの基本理念は“Compassionate care (すべての患者さんを自分の子供と思ってケアする)”ということです。それを毎日の業務の中で伝えていくのが私たち外国人の一番大きな役割ですが、これが浸透するのは、相当時間がかかることでもあります。それが、最近『ん？いい感じ！』ということがあって嬉しくなりました。プンミー医師が

りました。…が、しかし、Zちゃん家族はピエンチャンのような都会へ行ったことがなく、不安をあらわにしていました。その表情に気が付いたプンミー医師は、ちょうど4日間のオフが予定されていたので、「一緒にピエンチャンへ行きましょう」と付き添い役をオファー。一緒に長距離バスで病院まで行き、先方の病院へ無事引き渡すことができました。残りの3日間も病院へ出向いたり、電話で状況を確認し、またルアンパバーンに戻る前には友人にZちゃん家族のことをお願いしてくるという行き届いた対応に、Zちゃん家族も安心して医療を受けることができたようです。実はZちゃんの病状は悪性疾患の疑いがあったのですが、ピエンチャンでちゃんと精密検査を受け適切な治療を受けることで、今は完全に回復し、LFHCにフォローアップ受診で来た時には、とても晴れ晴れとした表情でした。プンミー医師は、医師学校に入学するための試験に2度落ちてしまったそうです。でも、どうしても医師になりたいという気持ちがあり、2年間の独学の末、合格。今は本当に仕事が楽しいと言っていました。こんな医師がたくさん増えてもらいたいですね！どこかで偉そ〜にしているあなた！患者さんはちゃんと見てますよ。〈ラオス2016年9～10月の出来事より〉

赤尾

kazumi akao  
和美 看護師の

## 「今月の出来事」から

患者さんのお話です。13歳のMちゃんは、ランプの灯が蚊帳に移り、下肢に大やけどを負いました。傷が回復するには長い時間が必要でした。街から離れた村で暮らしていたMちゃんにとっては、どんなに病院で手厚いケアを受けたとしても、やっぱり村での家族との暮らしが恋しいのです。院内では、できるだけ早く退院できるようにと、傷の処置が自分でできるようMちゃんに教えることにしました。そして、何度も練習を重ねてやっと本人も私たちも『大丈夫』と自信が持てるようになり、退院です！家では1週間に1度傷をきれいに消毒して、新しいガーゼで覆う作業をやらなければならないので、ガーゼ、包帯、洗浄剤、手袋などたくさん持って帰ることになりました。数か月の入院を終えた晴れた退院日は、病院の車で近くまで送ることにしました。車に乗り込んだMちゃんは、にっこり。ホント嬉しそうでした。とはいっても、2週間後には傷の手当てがきちんとできているか、傷の回復は順調かを見に行く予定にしていました。しかし、運悪く数日間の大雨でMちゃん宅への道が閉ざされてしまい、訪問する道はただ一つ、車+ボート+徒歩を使う迂回路しかありません。6時に病院を出発し、山を4つ越えてやっと到着したのは12時半でした。到着したらホッとしてしまい何をするか一瞬忘れてしまいましたが、早速Mちゃんに目の前で傷の手当てをしてもらいました。消毒の仕方をおさらいして、傷の状態を確認。傷は順調に回復していました！1か月後には病院へ来てもらわないといけませんが、まずは一安心！

それにしても、こんな道を来なければ医療にかかれないうのは、やっぱり医療は遠い。病院で簡単に「もっと早く来なくちゃだめよ」などとナンセンスなことを言う医療者を作ってはいけないと思います。私たち医療者も『知らないことを知らない』と常に念頭に置いておかなきゃ。〈ラオス2016年11～12月の出来事より〉



▲2時間の車の後、小さなボートに乗り継ぎ



▲川をザブザブー



▲もうひと山…うひゃ～！



◀稲刈り風景を横目にさらに前進、前進！



ちょうどマラソンの時期にいつも来ラオスして LFHC のためにチャリティーコンサートを開催してくださっているのが、栗コーダーカルテットとお仲間のみなさん。栗コーダーカルテットと言えば、あの『ピタゴラスイッチ』のかわいらしい音楽で有名ですよね。知らない人はいないというほど。今年はローカルアーティストの“カオニャオ”のパフォーマンスもジョイントし、さらに子供たちの心をはがっちりつかんでいました。ぜひ、たくさんの子供たちに観てもらいたいなと思いました。

〈ラオス 2016 年 9～10 月の出来事より〉



今年も恒例ヘアーデザイナーさんのボランティア軍団が来ラオス！3日間それぞれ違う村へ行きましたが、合計 400 名を超える子供と学校の先生、父兄さんの髪切り完了です！一人カットし終わるとすぐに次の子が席に付き、暑い中、立て続けに何十人も切り続けです。女の子はあまり切りたがらないでいたのですが、一人が思い切ってショートにしたことを「わー！かわいいー！」とみんなが称賛したら、そこからは次々と「短くしてください」とショートヘアが大流行してしまいました。ふふ。シラミがたくさんいたので。短くした方が退治しやすいので、良かったです。この作戦、来年もやってみましょう。皆さん、ご苦勞様でした。来年もよろしくお願いいたします。

〈ラオス 2016 年 11～12 月の出来事より〉

下の写真は、HIV 検査のカウンセラーの研修で、ロールプレイをしている様子です。HIV に限らず検査前には十分に患者さんへ説明をするべきですが、HIV は陽性であった場合、そのインパクトがライフスタイルや人生に与える影響がとても大きいので、必ず検査前後にカウンセリングをすることが義務付けられてます。臨床心理のカウンセリングとは違うので専門的に心理学を学ぶ必要はありませんが、それでも、見えない心のことを理解しなければなりません。見えないものを学ぶのはとても大変です。文化の違いもあるし、言葉の壁もあるので、どこまで伝わるかなと思いましたが、半日 ×5 日間 でじっくりと学んでもらいました。そして、研修最終日には習ったことの総まとめとして、ロールプレイで少しでも実感する時間を作りました。最後の感想は「難しい・・・」でしたが、難しいのだということが分かっただけで目的達成です。これから実際の経験の中で、さらに学びを固めていってもらえたらいいと思います。

〈ラオス 2016 年 11～12 月の出来事より〉



◀ロールプレイではなかなかの名演技

LFHC では新たな業務として予防注射を始めました。来院した患者さんすべてに予防注射の有無を確認し、最新の状態になっていない場合には接種します。この業務を開始するにあたり、LFHC のケオ看護師、ジュ看護師、アンボン看護師が県立病院で行われた研修に参加し、正式に開始することを許可されました。LFHC に来ている患者さんには、予防できる病気で苦しんでいる子供たちがたくさんいます。少しでもこれで、病から遠ざけることができればいいですね！〈ラオス 2016 年 11～12 月の出来事より〉



◀右からアンボン看護師、ジュ看護師、ケオ看護師

## ご支援について

## フレンズの活動にご支援をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員：年会費 1口6,000円
- 学生賛助会員：年会費 1口3,000円
- 一般寄付：金額・回数自由
- 正会員：年会費 個人12,000円  
団体・法人30,000円

\*ご支援いただいた方には、年2回発行のニューズレター、報告会やイベントの案内等をお送りします。

\*正会員は、総会において、団体の意志決定にご参加いただけます（委任状可）。正会員になるためには、当法人が定める入会申込書の提出が必要となります。別途お問い合わせください。

入金方法をお選びいただけます。

### ●郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN  
振替番号：00160-0-546217

### ●銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店  
口座番号：普通預金0420041  
口座名：(トクビ) フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダージャパン

### ●クレジット決済

インターネットを通じて、クレジットカードでご支援いただくことができます。フレンズJAPANのホームページ[www.fwab.jp](http://www.fwab.jp)にアクセスして右上の「寄付をする」をクリックし、手順に沿ってお手続きください。

\*寄付金控除が可能な領収証の発行方法が変わりました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

\*銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より直接送金される場合、送金者を特定することができません。お手数ですが、お電話またはメールでご連絡をお願いいたします。

\*アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を電話またはメールでお知らせください。振込用紙をご使用の場合は、備考欄にその旨をご記入願います。

## Information

### [Readyfor]へのご協力をお願いします

インターネットを通じて多くの方の支援を仰ぐクラウドファンディングの[Readyfor]に、今年もチャレンジしています。今回のプロジェクトは、ラオスの現状では根治不可能な病“サラセミア”に苦しむ子供とその家族を救うために企画しました。

ラオスで多く見受けられる遺伝性の血液疾患“サラセミア（地中海貧血）”は、極度の貧血状態に陥る病です。症状が現れた際は、対症療法として輸血をするしかありません。その費用は小さくなく、病を抱えた子供の家庭では、食うや食わずの生活を送りながら、費用を捻出しなければならないのです。

Readyforにチャレンジすることで、治療に不可欠な輸血費用と、繰り返しの輸血により体内に蓄積してしまう鉄分を測定する器械の購入費300万円を賄いたいと考えています。どうかご支援を、よろしくお願い申し上げます。

Readyforに関する詳細は、チラシをごらんください。

  
**FRIENDS**  
WITHOUT A BORDER

[www.fwab.jp](http://www.fwab.jp)

特定非営利活動法人

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町16-8

共同ビル7F

TEL/FAX：03-6661-7558

[friends@fwab.jp](mailto:friends@fwab.jp)

### Friends Without A Border

1123 Broadway, Suite 1210

New York, NY 10010 USA

TEL：212-691-0909

FAX: 212-337-8052

### Lao Friends Hospital for Children

P.O.Box 873, Luang Prabang, Lao PDR

TEL: 856-071-254-247